

蓄膿症(ちくのうしょう)について

健 康

通 信

常陸大宮済生会病院

外科・消化器科
高木 徹 先生

【蓄膿症とは】

その名の通り、膿^{うみ}がたまる病気です。どこにたまるのかといいますと、副鼻腔という鼻の近くの骨で囲まれた空洞にたまります。それも長期的に膿がたまりますので、「慢性副鼻腔炎^{まんせいふくびくうえん}」が正式な名称です。

【症 状】

副鼻腔に膿がたまりまると、鼻水・鼻づまりが生じます。匂いが分かりにくくなることもあります。顔の痛みや圧迫されるような感じがするため、頭痛として感じる人もいるかもしれません。

【診 断】

こういった症状に加えて、鼻の診察や画像検査で診断がつきます。ちなみに「慢性」とはなかなか治りにくいことを意味しますが、実際に約3か月(12週間)続くと慢性副鼻腔炎の診断になります(急性副鼻腔炎という病気もあります)。



【治 療】

一つに飲み薬があります。抗菌薬(マクロライド系)や排膿効果をもつ薬(システイン製剤)が、この病気に対して効果があることが分かっています。それ以外に、ステロイドや鼻に直接薬物を投与するエアロゾル療法、手術などがあります。

また子どもの蓄膿症については、治ったり悪くなったりを繰り返して、そのうちの半分はやがて自然に治ってしまうともいわれています。これは子どもと大人では、蓄膿症にかかる仕組みが同じではないためと考えられています。

【最後に】

なかなか治りにくい鼻水や鼻づまり、顔や頭の痛みでずっと悩んでいる方は、蓄膿症の可能性あることを覚えておきましょう。単純に蓄膿症といっても、その種類や程度、子どもか大人かによっても治療法は様々です。ひとりで悩まずに、まずは病院の専門科を受診して相談してみることをお勧めします。

<平成28年度 常陸大宮済生会病院 救急患者受入状況>

※救急受け入れの人数を月別に表しています。(休日・時間外を含む)



■ 救急車以外
■ 救急車

